



庫	交	開	
		六	
		二	
		八	
		一	
函			
		號	
架	冊		部

勸業模範場一覽

朝鮮總督府勸業模範場

670.76
115



勸業模範場一覽

沿、草

明治三十八年十二月統監府ノ設置セリルヤ我政府ハ朝鮮ニ於ケル産業開發ノ極メテ急務ナルヲ認メ明治三十九年四月統監府勸業模範場官制ヲ發布シ地ヲ宜畿道水原ニトシテ之ヲ設置シ又別ニ全羅南道木浦ニ其ノ出張所ヲ設置セリ然レニ同年十月日韓兩政府間ニ於テ讓渡ノ議起リ時ノ韓政府ハ明年四月以降之カ引續實施ヲ照會スル所アリ之ニ對シ統監府ハ同場事業ノ經營方針ヲ變更セシメサルコトヲ條件トシテ讓渡スヘキ旨ヲ回答セリ是ニ於テ韓政府ハ明治四十年(光武十二年)三月勸業模範場官制ヲ發布シ同年四月同政府農商工部ノ所管ニ屬セリ而シテ統監府勸業模範場職員ノ全部ハ韓政府ニ招聘セラレ事業ノ經營ヲ囑託セラレタリ

明治四十一年(隆熙二年)一月更ニ全羅北道群山及平安南道平壤ニ出張所ヲ設置シ同年四月慶尚北道大邱ニ出張所ヲ増設シタリ其後明治四十二年(隆熙三年)全羅南道北道二種苗場ノ新設セラルルアリテ木浦郡山ノ出張所ハ其存置ノ必要ナキニ至リメルトナリ以テ同年二月之ヲ廢止セリ

明治四十三年八月日韓併合ノ事行ハレ諸制更新ノ結果當場モ亦總督府ノ所轄スルトコトナリ同年九月勸令第三百七十號ヲ以テ朝鮮總督府勸業模範場官制ヲ發布アリ農林學校ヲ附置シ支場ヲ大邱平壤木浦龍山五ヶ所ニ設置スルコトナレリ是ニ於テ從來平壤大邱ノ二出張所ハ支場トナリ更ニ龍山園藝模範場、龍山女子蠶業講習所、木浦臨時棉花栽培所、農林學校ヲ併合シ一學校五支場ヲ有スルニ至リ今是等併合セラレタルモノノ沿革ヲ述レハ左ノ如シ

一、農林學校 本校ハ明治三十九年(光武十年)九月ノ創立ニ係ル之日ヨリ先キ韓國學部ハ實業教育ノ必要ヲ認メ明治三十七年(光武八年)九月同部直轄ノ下ニ農商工學校ヲ創立シ京城中部露連洞ニ附屬農事試驗場ヲ龍島ニ設ケタリ然レニ明治三十九年ニ至リ三科ノ併設ハ各科ヲ發達セシムル所以ニアラスト認メ農科ハ之ヲ分離シテ農林學校ト改稱シ農商工部ノ所轄ニ移シ校舍ノ擴張及實習地新設ノ必要アリタル爲地ヲ京畿道水原勸業模範場ノ隣地ニトシ新々ニ校舍ヲ建築シ明治四十年(光武十一年)一月此地ニ移轉シ以テ明治四十三年ニ及ヒ同年九月勸業模範場ニ附置セラレタリ

二、龍島園藝模範場 本場ハ元韓國學部所管農商工學校附屬農事試驗場ノ跡地ニシテ同場ハ明治三十八年(光武九年)十月設置セラレタルモ翌三十九年(光武十年)四月廢場セラルルヤ韓國農商工部ハ同場ノ全部ヲ學部ヨリ引續キ園藝模範場ヲ設置シ果樹蔬菜ノ栽培法ヲ模範ヲ示スコトトシ同年八月其ノ官制ヲ發布セラレタリ而シテ明治四十三年日韓併合ノ際勸業模範場所管トナリ龍島支場ト改稱スルニ至レリ

三、龍山女子蠶業講習所 本所ハ明治三十八年(光武九年)七月朝鮮實業婦人ノ組織セル大韓婦人會ノ女子ニ蠶業ヲ講習セシムルノ目的ヲ以テ養蠶講習所ヲ設置シタルニ創始シ明治四十三年迄ハ同會ノ經營スルトコトナリシカ同年二月韓國政府ハ其ノ事業ヲ繼承シ女子蠶業講習所官制ヲ發布セリ然レニ同年九月總督府勸業模範場官制ヲ發布ニ當リ龍山支場設置セラレ本所ハ其ノ所屬トナレリ

四、木浦臨時棉花栽培所 明治三十八年(光武九年)棉花栽培協會創立セラレ我農商務省ハ技術者ヲ派遣シ韓國政府ハ金十萬圓ノ支出ヲ約シ陸地棉花獎勵普及スルノ方針ヲ立テ明治三十九年(光武十年)棉花栽培協會ヲ組織シ其ノ主要地タル全羅南道内十ヶ所ニ設置セリ其ノ栽培面積ハ四十五町餘ニシテ其ノ他各道ニ於ケル日本農事經營者ニ陸地棉花栽培ヲ委託セリ此時ニ際シ統監府ハ勸業模範場ヲ設置シ産業ノ發達改良ニ資スル模範調査及試驗ニ任セシメ指導機關トシテ之ヲ以テ棉花栽培所トシ事業ヲ經營然之カ指導ヲ受クルコトナレリ即チ勸業模範場ハ木浦ニ出張所ヲ設ケ試驗事業ヲ行フノ外新業指導ニ任シタリ而シテ同年七月同出張所ハ更ニ協會ノ請ニ應ジ其ノ陸地棉花栽培事業ヲ繼承スルニ至レリ斯クテ韓國政府ハ棉花栽培所ニ於テ收穫買取セル棉花種子ノ散逸ヲ防キ之ヲ保留セシカ爲メ棉花工場ヲ木浦ニ設置シ同

於テ大邱平壤兩支場ヲ廢止セルハ兩支場ニ於テ從來施行セル普通農事ノ改良指導ニ關セル業務ハ道種苗場トシテ之ヲ經營スルヲ却テ便利ナリトナシ其ノ業務ヲ道ニ繼承セルノ結果ニシテ龍山支場ヲ廢止セルハ大正二年度ニ於テ原蠶種製造事業ヲ水原本場ニ移シ女子蠶業講習所亦大正三年度ニ於テ水原ニ移轉スルコトナリシ結果存置ノ必要ナキニ至リタレハナリ元出張所ヲ德源支場トナシ牧羊場ヲ出張所トナシ原蠶種製造所ヲ特設機關トナセルハ共ニ設備漸成ノ結果ニ伴フモノトス大正五年當場ハ馬匹改良ノ目的ヲ以テ地ヲ江原道淮陽郡開谷面ニトシ牧羊場事業地ヲ開始シ爾來著々其ノ設備ノ完成ヲ圖リツツアリ

大正六年六月當場事務分掌規程改正セラレ木浦支場ハ木浦耕作支場、龍島支場ハ龍島園藝支場、德源支場ハ德源園藝支場、洗浦出張所ハ洗浦牧羊支場、原蠶種製造所ハ蠶業試驗所ト改稱開谷面牧羊場事業地ハ其ノ設備完成セルヲ以テ之ヲ支場トナシ開谷牧羊支場ト命名セリ

大正七年四月水原農林專門學校創立セラレ當場附置農林學校ハ一箇年間同校ニ附置セラレハコトナリタル結果官制改正セラレ農林學校ノ當場附置ヲ廢スルニ至レリ大正八年當場ハ朝鮮北部ニ於ケル一般農事改良ト在來棉トニ關スル試驗開始ノ目的ヲ以テ黃海道鳳山郡沙里院ニ支場ヲ設置シ平安南道龍阿郡龍阿ニ出張所ヲ設置スルコトナレリ

勸業模範場官制

- 第一條 朝鮮總督府勸業模範場ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル
- 一、産業ノ發達改良ニ資スル調査及試驗
 - 二、物産ノ調査産業上必要ナル物料ノ分析及鑑定
 - 三、種子種畜種禽及種畜ノ配付
 - 四、原蠶種ノ製造及配付
 - 五、産業ノ指導講習及通信
- 第二條 勸業模範場ニ左ノ職員ヲ置ク
- 技師 專任 十五人 奏任 内一人ヲ勸任ト爲スコトヲ得
 - 書記 專任 十人 列任
 - 技手 專任 三十人 列任
- 第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ場中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス
- 第四條 技師ハ場長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 第五條 書記及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ從事ス
- 第六條 朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ勸業模範場ノ支場又ハ出張所ヲ設ケルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

勸業模範場事務分掌規程

第一條 勸業模範場ハ本場ヲ水原ニ、四野支場ヲ沙里院ニ、耕作支場ヲ木浦ニ、棉作出張所ヲ龍阿ニ、園藝支場ヲ龍島及德源ニ、牧羊支場ヲ洗浦ニ、牧羊支場ヲ開谷ニ、蠶業試驗所及女子蠶業講習所ヲ水原ニ置ク

第二條 本場ニ於テハ普通農事、土地改良、畜産及分析ニ關スル事項ヲ掌ル

第三條 四野支場ニ於テハ田ノ作物ニ關スル事項ヲ掌ル

第四條 龍島及德源園藝支場ニ於テハ園藝ニ關スル事項ヲ掌ル

第五條 洗浦牧羊支場ニ於テハ羊ニ關スル事項ヲ掌ル

第六條 開谷牧羊支場ニ於テハ馬ニ關スル事項ヲ掌ル

第七條 蠶業試驗所ニ於テハ蠶業ニ關スル事項ヲ掌ル

第八條 女子蠶業講習所ニ於テハ女子蠶業講習ニ關スル事項ヲ掌ル

第九條 支場ニ支場長、蠶業試驗所及女子蠶業講習所ニ所長ヲ置ク

第十條 女子蠶業講習所長ハ蠶業試驗所長ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 支場長及所長ハ場長ノ指揮監督ヲ承ケ支場、蠶業試驗所又ハ女子蠶業講習所ノ事務ヲ處理ス

第十二條 左ニ掲ケル事項ハ本場及出張所ニ於テハ場長、支場ニ於テハ所長ノ指揮監督ヲ受クルコトナレリ

於テ大邱平壤兩支場ヲ廢止セルハ兩支場ニ於テ從來施行セル普通農事ノ改良指導ニ關セル業務ハ道種苗場トシテ之ヲ經營スルヲ却テ便利ナリトナシ其ノ業務ヲ道ニ繼承セルノ結果ニシテ龍山支場ヲ廢止セルハ大正二年度ニ於テ原蠶種製造事業ヲ水原本場ニ移シ女子蠶業講習所亦大正三年度ニ於テ水原ニ移轉スルコトナリシ結果存置ノ必要ナキニ至リタレハナリ元出張所ヲ德源支場トナシ牧羊場ヲ出張所トナシ原蠶種製造所ヲ特設機關トナセルハ共ニ設備漸成ノ結果ニ伴フモノトス大正五年當場ハ馬匹改良ノ目的ヲ以テ地ヲ江原道淮陽郡開谷面ニトシ牧羊場事業地ヲ開始シ爾來著々其ノ設備ノ完成ヲ圖リツツアリ

大正六年六月當場事務分掌規程改正セラレ木浦支場ハ木浦耕作支場、龍島支場ハ龍島園藝支場、德源支場ハ德源園藝支場、洗浦出張所ハ洗浦牧羊支場、原蠶種製造所ハ蠶業試驗所ト改稱開谷面牧羊場事業地ハ其ノ設備完成セルヲ以テ之ヲ支場トナシ開谷牧羊支場ト命名セリ

大正七年四月水原農林專門學校創立セラレ當場附置農林學校ハ一箇年間同校ニ附置セラレハコトナリタル結果官制改正セラレ農林學校ノ當場附置ヲ廢スルニ至レリ大正八年當場ハ朝鮮北部ニ於ケル一般農事改良ト在來棉トニ關スル試驗開始ノ目的ヲ以テ黃海道鳳山郡沙里院ニ支場ヲ設置シ平安南道龍阿郡龍阿ニ出張所ヲ設置スルコトナレリ

不壤木浦島龍山ノ五ヶ所ニ設置スルコトナレリ是ニ於テ從來
平壤大邱ノ二出張所ハ支場トナリ更ニ蕪島園藝模範場、龍山女子
蠶業講習所、木浦臨時棉花栽培所、農林學校ヲ併合シ一學校五支
場ヲ有スルニ至レリ今是等併合セラレタルモノノ沿革ヲ述レハ左
ノ如シ

一、農林學校 本校ハ明治三十九年(光武十年)九月ノ創立ニ係ル
之ヨリ先キ韓國農部ハ實業教育ノ必要ヲ認メ明治三十七年(光
武八年)九月同部直轄ノ下ニ農商工學校ヲ創立シ校舍ヲ京城申
部壽運洞ニ附屬農事試驗場ヲ藉島ニ設ケタリ然レニ明治三十九
年ニ至リ三科ノ併設ハ各科ヲ發達セシムル所以ニアラスト認メ
農科ハ之ヲ分離シテ農林學校ト改稱シ農商工部ノ所轄ニ移シ校
舎ノ擴張及實習地新設ノ必要アリタル爲地ヲ京畿道水原勸業模
範場ノ隣地ニトシ新タニ校舍ヲ建築シ明治四十年(光武十一年)
一月此地ニ移轉シ以テ明治四十三年ニ及ヒ同年九月勸業模範場
ニ附置セラレタリ

二、蕪島園藝模範場 本場ハ元韓國農部所管農商工學校附屬農事
試驗場ノ跡地ニシテ同場ハ明治三十八年(光武九年)十月設置セ
ラレタルモ翌三十九年(光武十年)四月廢場セラレタル韓國農商
工部ハ同場ノ全部ヲ學部ヨリ引繼キ園藝模範場ヲ設置シ果樹蔬
菜ノ栽培法ノ模範ヲ示スコトトナシ同年八月其ノ官制ヲ發布セ
ラレタリ而シテ明治四十三年日韓併合ノ際勸業模範場所管トナ
リ蕪島支場ト改稱スルニ至レリ

三、龍山女子蠶業講習所 本所ハ明治三十八年(光武九年)七月朝
鮮貴婦人ノ組織セル大韓婦人會ノ女子ニ蠶業ヲ講習セシムルノ
目的ヲ以テ養蠶講習所ヲ設置シタルニ創始シ明治四十三年迄ハ
同會ノ經營スルトコロタリシカ同年二月韓國政府ハ其ノ事業ヲ
繼承シ女子蠶業講習所官制ヲ發布セリ然レニ同年九月總督府勸
業模範場官制ノ發布ニ當リ龍山支場設置セラレ本所ハ其ノ所屬
トナレリ

四、木浦臨時棉花栽培所 明治三十八年(光武九年)棉花栽培協會
創立セラレ我農商務省ハ技術者ヲ派遣シ韓國政府ハ金十萬圓ノ
支出ヲ約シ陸地棉花獎勵普及スルノ方針ヲ立テ明治三十九年
(光武十年)棉花栽培協會ヲ主要地タル全羅南道内十ヶ所ニ設
置セリ其ノ栽培面積ハ四十五町餘ニシテ其ノ他各道ニ於ケル日
本農事經營者ニ陸地棉花栽培ヲ委託セリ此時ニ際シ我統監府ハ
勸業模範場ヲ設置シ産業ノ發達改良ニ資スル模範調査及試驗ニ
任シ又朝鮮獎勵棉花栽培所ヲ以テ棉花栽培ノ事業モ當
然之カ指導ヲ受ケルコトトナレリ即チ勸業模範場ハ木浦ニ出張
所ヲ設ケ試驗事業ヲ行フノ外斯業指導ニ任セタリ而シテ同年七
月同出張所ハ更ニ協會ノ請ニ應ジ其ノ陸地棉花栽培事業ヲ繼承ス
ルニ至レリ斯クテ韓國政府ハ棉花栽培所ニ於テ收穫買取セル棉花
子ノ散逸ヲ防キ之ヲ保留セシカ爲メ棉花栽培所ハ木浦ニ設置シ同
年十二月其ノ試運轉ヲナスニ至レリ明治四十年(隆熙元年)勸業
模範場ノ韓國政府ニ屬スルヤ棉花栽培事業等モ共ニ同政府ノ管
スルトコロトナリ前年來ノ方針ヲ繼承シテ順調ニ進行シタリ而
シテ明治四十一年(隆熙二年)韓國政府ハ斯業ノ擴張改良ノ必要
上之ヲ獨立機關タラシメシコトトナシ同年九月臨時棉花栽培所
官制ノ發布ヲ見ルニ至レリ茲ニ於テ棉花栽培所等ノ事業ハ一タモ
勸業模範場ノ手ヲ離ルルニ至リシモ明治四十三年朝鮮總督府勸
業模範場官制ノ發布セラレタルヤ同事業ハ再ヒ勸業模範場ノ經營
スルトコロトナリ臨時棉花栽培所ハ改メテ木浦支場ト稱スルニ
至レリ

大正元年三月勸業模範場官制ノ改正アリ龍山支場ヲシテ原蠶種ノ
製造及配付ノ事業ヲ創始セシメ木浦支場ノ棉花採種等ノ事業ハ道
ナシテ繼承セシメ同場ハ單ニ専ラ棉花栽培試驗ト稱種改良トニ從
事スルトコロトナレリ之ト同時ニ元山ニ出張所ヲ創設シ北鮮ノ園藝
事業ニ對シ啓發指導ノ任ニ當ラシムルコトトナレリ

龍山支場ニ屬スヘキ原蠶種製造所ハ大正元年ニ於テ京畿道楊州郡
靈室里ニ設置スルノ豫定ナリシモ之ヲ勸業模範場本場ノ接續地ニ
設置スルトコロトナシ大正二年ヨリ原蠶種製造ノ事業ハ之レヲ水原
ニ於テ行フコトトナレリ

大正二年度ヨリ牧羊調査ノ爲メ江原道平康郡洗浦ニ牧羊場ヲ設ケ
タリ又大正三年三月訓令第七號ヲ以テ當場事務分掌規程改正セラ
レ大邱平壤龍山三支場ヲ廢止シ元山出張所ヲ德源支場ト改稱シ洗
浦牧羊場ヲ洗浦出張所トナシ新ニ原蠶種製造所ヲ設ケリ木改正ニ

至レリ

勸業模範場官制
第一條 朝鮮總督府勸業模範場ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項
ヲ掌ル
一、産業ノ發達改良ニ資スル調査及試驗
二、物産ノ調査並産業上必要ナル物料ノ分析及鑑定
三、種子種苗種畜及種畜ノ配付
四、原蠶種ノ製造及配付
五、産業ノ指導講習及通信

第二條 勸業模範場ニ左ノ職員ヲ置ク
場長
技師 專任 十五人 奏任 内一人ヲ勸任ト
書記 專任 十人 判任 爲スコトヲ得
技手 專任 三十人 判任

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ場
中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス
第四條 技師ハ場長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第五條 書記及技手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ從事ス
第六條 朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ勸業模範場ノ支場又ハ出張
所ヲ設ケルコトヲ得

附則
本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

勸業模範場事務分掌規程
第一條 勸業模範場ハ本場ヲ水原ニ、四鮮支場ヲ沙里院ニ、棉作
支場ヲ木浦ニ、棉作出張所ヲ龍岡ニ、園藝支場ヲ蕪島及德源ニ
牧羊支場ヲ洗浦ニ、牧馬支場ヲ關谷ニ、蠶業試驗所及女子蠶業
講習所ヲ水原ニ置ク

第二條 本場ニ於テハ普通農事、土地改良、畜産及分析ニ關スル
事項ヲ掌ル
四鮮支場ニ於テハ田ノ作物ニ關スル事項ヲ掌ル
木浦棉作支場及龍岡棉作出張所ニ於テハ棉花ニ關スル事項ヲ掌
ル
蕪島及德源園藝支場ニ於テハ園藝ニ關スル事項ヲ掌ル
洗浦牧羊支場ニ於テハ羊ニ關スル事項ヲ掌ル
關谷牧馬支場ニ於テハ馬ニ關スル事項ヲ掌ル
蠶業試驗所ニ於テハ蠶業ニ關スル事項ヲ掌ル
女子蠶業講習所ニ於テハ女子蠶業講習ニ關スル事項ヲ掌ル

第三條 支場ニ支場長、蠶業試驗所及女子蠶業講習所ニ所長ヲ置
ク
女子蠶業講習所長ハ蠶業試驗所長ヲ以テ之ニ充ツ
支場長及所長ハ場長ノ指揮監督ヲ承ケ支場、蠶業試驗所又ハ女
子蠶業講習所ノ事務ヲ處理ス

第四條 左ニ掲ケル事項ハ本場及出張所ニ於テハ場長、支場ニ於
テハ支場長、蠶業試驗所及女子蠶業講習所ニ於テハ所長ニ於
テハ所長
一、委託試驗ニ關スル事項
二、質問應答ニ關スル事項
三、講話ニ關スル事項
四、調査ニ關スル事項

第五條 場長ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ第二條ニ規定シタル以
外ノ事務ヲ本場、支場、出張所、蠶業試驗所又ハ女子蠶業講習
所ニ分掌セシムルコトヲ得

第六條 場長、支場長、又ハ所長事故アルトキハ上席技師又ハ技
手ヲ代理ス
第七條 農業ニ關シ旅費ヲ負擔シ場員ノ出張運送ヲ積フモノアル
トキハ本場及出張所ニ於テハ場長之ヲ許シ支場蠶業試驗所及
女子蠶業講習所ニ於テハ支場長又ハ所長之ヲ許シ支場長又ハ
所長許シタル場合ニハ其ノ旨ヲ場長ニ報告スヘシ

第八條 場長、支場長及所長ハ見習生ヲ入場セシムルコトヲ得
見習生ニ關スル規程及其ノ人員ハ場長之ヲ定ム
第九條 場長ハ總督ノ許可ヲ受ケ本場、支場、出張所、蠶業試驗
所ノ處務細則及女子蠶業講習所ノ講習ニ關スル規定ヲ設ケルコ
トヲ得

位置及氣候

勸業模範場ハ京畿道水原郡日浦面西屯里ニ在リテ北麓岐山ヲ負ヒ東北四湖ニ臨ミ北緯三十七度東經百二十七度ニ位シ海拔百七十五尺トス
 今明治四十二年乃至大正九年ノ十二箇年間ノ平均ニ依リ氣候ノ大要ヲ舉クレバ左ノ如シ

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
平均氣壓	七六九	七六八	七六八	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九
平均氣溫	(-) 四、四	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七
最高溫度	七、五	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七	一、七
最低溫度	(-) 八、四	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七	(-) 一、七
平均濕度	六九、九	六九、九	六九、九	六九、九	六九、九	六九、九	六九、九	六九、九	六九、九	六九、九	六九、九	六九、九	六九、九
最少濕度	四九、三	四九、三	四九、三	四九、三	四九、三	四九、三	四九、三	四九、三	四九、三	四九、三	四九、三	四九、三	四九、三
雨日數	七、七	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六
降水量	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三
蒸發量	一八、二	一八、二	一八、二	一八、二	一八、二	一八、二	一八、二	一八、二	一八、二	一八、二	一八、二	一八、二	一八、二
日照時數	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八

備考 氣壓降水量蒸發量ハ、溫度ハ攝氏ノ度、風力ハ秒米トス

土地及土質

本場所屬用地ハ百五十九町余ニシテ中ニ田畝アリ沼湖山林アリ又草生地アリ諸般ノ地目ヲ有スルヲ以テ農業上ニ於ケル各種ノ試驗ヲ行ヒ模範ヲ示スニ適ス今田畝其ノ他ノ面積ヲ示セバ左ノ如シ

田畝	沼湖	山林	草生地	諸般
田畝	三、九	四、六	三、九	三、九
沼湖	三、九	三、九	三、九	三、九
山林	三、九	三、九	三、九	三、九
草生地	三、九	三、九	三、九	三、九
諸般	三、九	三、九	三、九	三、九

土質ハ花崗岩ノ風化ニ依リテ成レル沖積質ニシテ表土ノ深サ四寸乃至六寸ヲ普通トシ心土ハ褐色ヲ帶ヒタル沖積質粘土ナリトス故ニ心土ハ水ノ滲透力極メテ少ク保水力ハ甚タ大ナリ當場ニ於テ田畝ノ一部ノ土壤ニ對シ海法分析ヲ行ヒタルニ左ノ成績ヲ得タリ

次ニ砂分ノ組成ヲ示セバ左ノ如シ

地目	土粒	石	砂	細砂	粗粘土	粘土	細粘土	微粘土	原土	土質
田畝	〇、一八六	〇、一八六	六、四六六	六、四六六	三、〇七〇	九、九八〇	七、二〇〇	六、九〇〇	九、一八二	砂質壤土
沼湖	〇、一八六	〇、一八六	六、四六六	六、四六六	三、〇七〇	九、九八〇	七、二〇〇	六、九〇〇	九、一八二	砂質壤土
山林	〇、一八六	〇、一八六	六、四六六	六、四六六	三、〇七〇	九、九八〇	七、二〇〇	六、九〇〇	九、一八二	砂質壤土
草生地	〇、一八六	〇、一八六	六、四六六	六、四六六	三、〇七〇	九、九八〇	七、二〇〇	六、九〇〇	九、一八二	砂質壤土
諸般	〇、一八六	〇、一八六	六、四六六	六、四六六	三、〇七〇	九、九八〇	七、二〇〇	六、九〇〇	九、一八二	砂質壤土

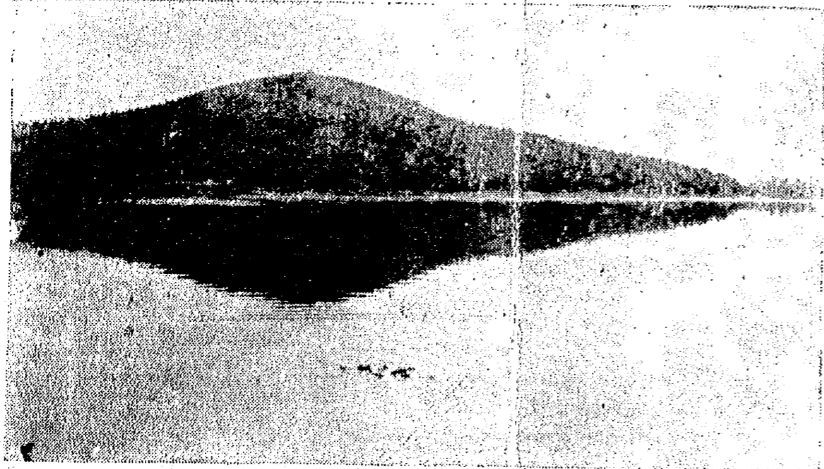
西 湖

當場耕地ノ灌溉ハ之ヲ西湖ニ仰ク西湖ハ滿水面積約四十町滿水面ハ海拔百三十九尺餘ニシテ放水口礫石ヲ零位トシ十一尺八寸六分ノ高サニアリ水質清冽水量亦豐富ニシ

テ能ク湖南三百餘町ノ稻畝ニ灌溉ヲナスニ足ル而シテ滿水セハ餘水ハ溢レテ瀧ヲナシ流レテ河トナレリ

西湖ハ距今百二十餘年前李朝正宗王十九年築造セルモノニシテ宮内府經理院ノ所屬ナリシカ明治四十一年所管轉換ヲ行ヒ當場所屬トナレリ

西湖ノ受水區域中山ノ最高キハ光教山(海拔九百九十九尺餘)ニシテ之ニ次クハ麗岐山ナリ其ノ地ハ傾斜緩ニシテ松ノ粗林多ク積山亦尠カラズ受水區域ノ總面積ハ一千九百五十餘町ニシテ此ノ區域ニ降レル總降水量中西湖ニ流入スル七箇年平均水量ヲ調査セシメ集水量六千四百餘石ニシテ降水量千四百餘石ヲ測リ其水量ハ總降水量ノ五二%六ニ當レリ



西 湖 麗 岐 山

麗 岐 山

麗岐山ハ當場ノ北端ニアリ當場廳舎ノ背後ニ峙テ西湖ニ瀕ス海拔三百五十九尺山面積二十五町余ナリトス當場ハ植林ノ範ヲ示シ且ツ水源涵養ヲ圖ラン爲メ明治四十二年之ヲ購入セリ

報 告

勸業模範場ニ於テ施行セル試驗ノ成績及調査セル事項ハ時々之ヲ印刷ニ附シテ官衙及公私ノ團體等ニ配布ス

質 問 應 答

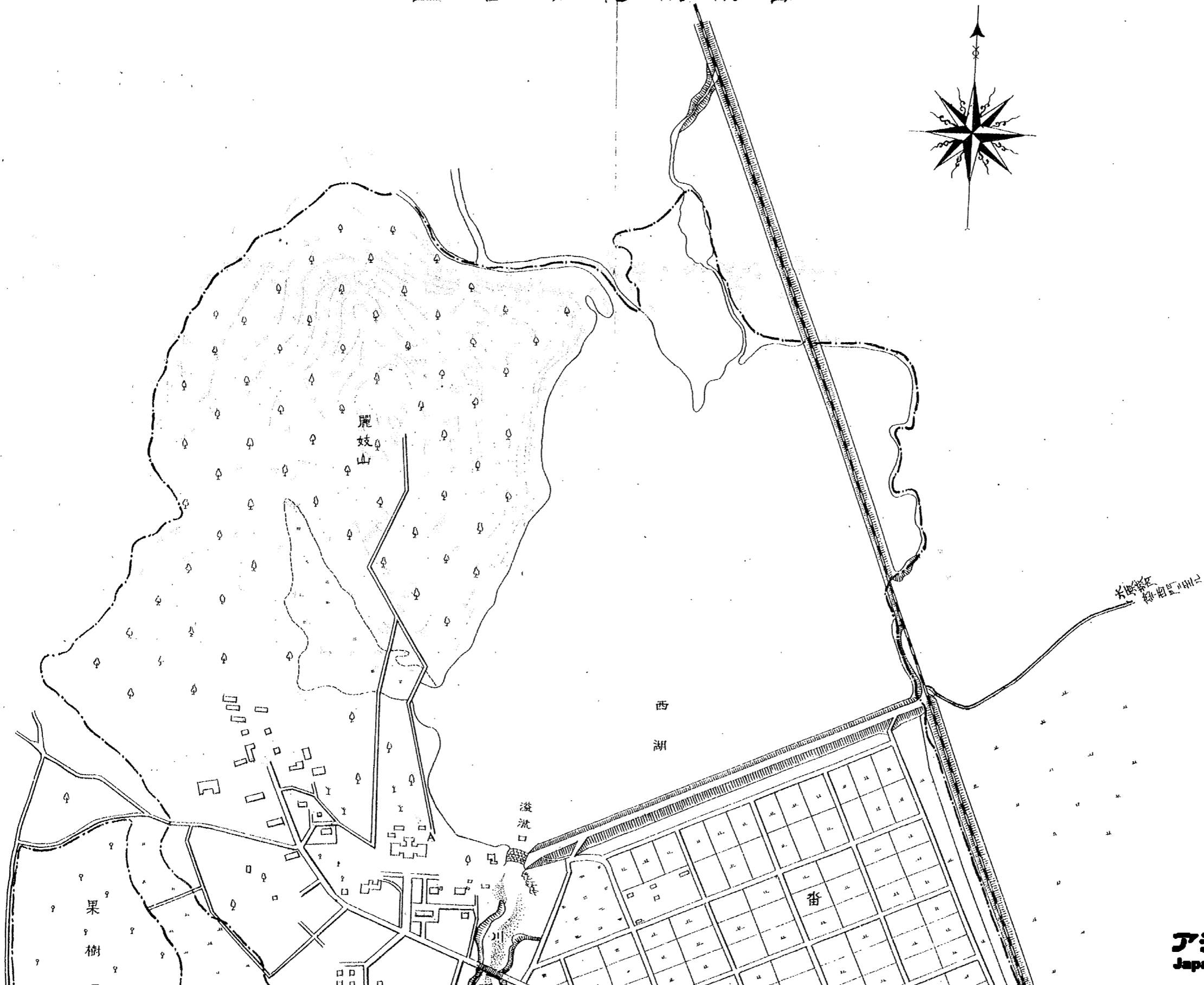
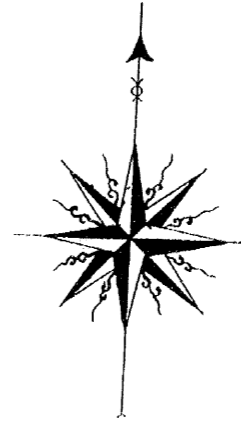
勸業模範場ハ何人ニ對シテモ質問ニ應答スヘキヲ以テ之ヲ望ム者ハ其事項ヲ詳細シテ申出ツベシ但シ鑑定ヲ要スルモノハ標本ヲ添付スヘシ

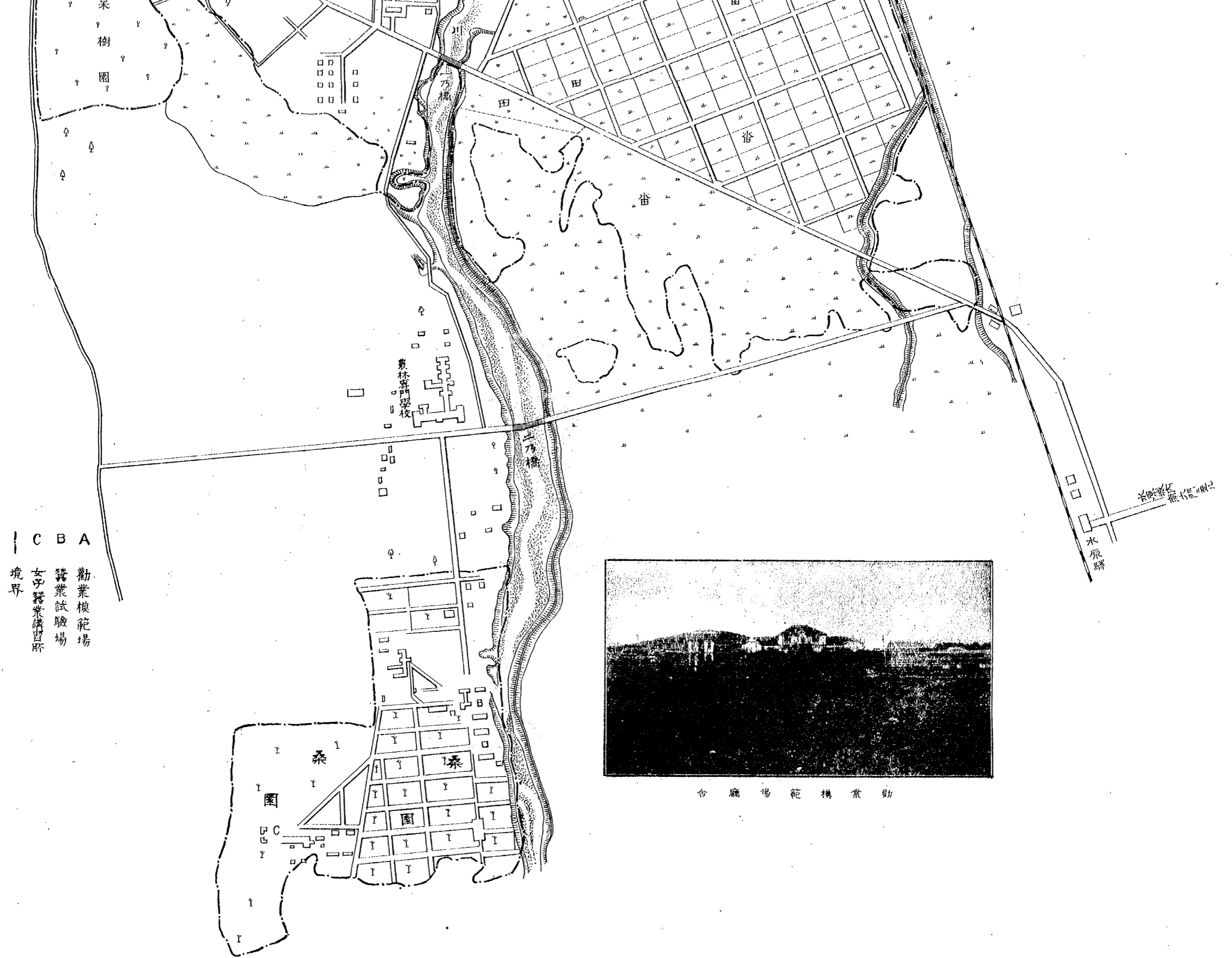
參 觀 人

勸業模範場ハ何人ニテモ縱覽ヲ許可スルヲ以テ之ヲ望ム者ハ事務室ニ其氏名ヲ通シテ案内ヲ請フヘシ



勸業模範場畧圖





勸業模範場會舍